ドイツ語圏文化概論Ⅰb

2015年11月24日

ドイツ語における国語浄化運動

Deutscher Sprachpurismus

武田一紗

1.Sprachpurismusとは

Sprachpurismusとは、ある言語から外来語の影響の排除を目的とした「国語浄化運動」を意味する。(類語：Sprachreinigung「国語浄化」)

1.2.Deutscher Sprachpurismus

外来語、借用語をドイツ語化することにより駆逐する運動。 Peter von Polenz (1928-2011)が、17世紀18世紀における外来語に対抗しての国語育成を目的とした尽力をSprachpurismusという表現で言い表した。その尽力は通例的にはドイツ語への愛着心からとされているが、その傍ら背景としては多少なりとも国粋主義的態度を持っていた。

2.国語浄化運動の歴史

2.1.バロック時代、啓蒙主義の時代

1617年に、外来語に反対しようとした最初の国語協会は「実りをもたらす会(die Fruchtbringende Gesellschaft)」であった。それに続き同じような目的をもった国語協会が次々と組織された。そして、特にラテン語・フランス語の概念をドイツ語化した単語(Eindeutschung)が次々と現れた。

・Philipp von Zesen(1619-1689)によるドイツ語化

【例】die Bibliothek(Latein: bibliothca)-*die Bücherei*, die Moment(Latein: momentum)-*der Augenblick*, die Distanz(Latein: distantia)-*der Abstand*, die Passion(Latein: passio)-*die Leidenschaft*, die Korrespondenz(mittellateinisch: correspondentia)-*der Briefwechsel*, das Journal(Italienisch: giornale)-*das Tagebuch*

・Joachim Heinrich Campe(1746-1818)によるドイツ語化

【例】die Antike(Latein: antiquus)-*das Altertum*, die Universität(Latein: universitas)-*die Hochschule*, das Parterre(Französisch: parterre)-*das Erdgeschoss*, die Delikatesse(Französisch: dèlicatesse)-*das Feingefühl*

その一部には定着しなかったものもある。

die Kultur(Latein: cultura)-*die Zwischenstille*, das Sofa(Französisch: sofa)-*das Lotterbett*, die Chemie(Latein: febris)-*das Zitterweh* など

多くの場合では、今日でも本来の概念と浄化主義的概念の単語両方が平行して存在する。その際に、場合によっては意味の相違や地域による使い方の相違がある。この時代、ドイツ語化された新語は批判を受けることもしばしばあり、ゲーテとシラーによる風刺詩であるクセーニエン(Xenien)※1においても国語浄化運動は批判されている。

2.2.19 世紀

1885 年 der Allgemeine Deutsche Sprachverein が創立され、Heinrich von Stephan(1831-1897)はそれまですべてフランス語が使われていた郵便に関する借用語のドイツ語化を行った。

【例】die Adresse(Französisch: adresser)-*die Anschrift*,

poste restante-*postlagernd*「局留めの」

また、鉄道の分野での Stephan に相当するのはエンジニアの Otto Sarrazin(1842-1921)で、同じくそれまでフランス語が使われていた鉄道に関する借用語のドイツ語化を行った。

【例】das Coupé(coupé)-das Abteil, der Perron(perron)-der Bahnsteig,

das Billett(billet)- die Fahrkarte

2.3.ナチスの時代

ナチスの時代にもこの言語浄化運動の伝統は存在はしたが、あまりにも激しい国語浄化運動は時代遅れであるという異議が主張され、der Allgemeine Deutsche Sprachverein は解散した。ドイツ語話者の間ではこの時代、Sprachpurismus という語でナチ党員による言語政策を思い浮かべる者もいた。※2

ジャーナリスト Victor Klemperer(1881-1960)はこのことについて、この時代外来語が隠蔽に使われていたと彼の本※3に記した。

“Ein schön gelehrtes Signum, wie ja das Dritte Reich von Zeit zur Zeit den volltönenden Fremdausdruck liebte:>Garant< klingt bedeutsamer als >Bürge< und >diffamieren< imposanter als >schlechtmachen<.(Vielleicht versteht es auch nicht jeder, und auf den wirkt es dann erst recht.)”⑴

「あるすばらしく博学なサイン、むろん、ちょうどヒトラーの第三帝国が時折内容のない外来語表現を好んでいた。Garant は Bürge よりも印象深くに聞こえるし、diffamieren は schlechtmachen よりも意味深長に聞こえるのだ。(おそらく、誰もがそれを理解する訳ではな

い。それらの人々にこれらの表現は初めには正しいという印象を与えるのだ。)」

2.3.現代

今日で国語浄化運動という言葉は時代錯誤ではあるが、国語育成協会は英語風の慣用語表現の頻繁な使用に対抗する方向に転換しており、それらの語をドイツ語の言葉と変換しようとしている。この目的でドイツ語化単語辞典やリストが提供されている。例として、“Internet”に対して“Weltnetz”などが挙げられるが、目下のところは大部分においては元来の語を変えないことになっている。(例：die CD, das Internet) 一部では英語からの外来語による造語も生じている。(例:das Handy, der Oldtimer) 他にも英語からの語彙は時々現存する命名を排除してしまい (例：CD-Spieler→CD-Player)最終的にいくつかの語彙は効果的にドイツ語化されている。(例:downloaden ,chillen, adden)

3.まとめ

現代ドイツ語には、外来語と固有語からなる類義語のペアが数多く存在する。このような語彙の二重構造の原因として国語浄化運動が挙げられる。Philipp von Zesen は外来語に取って代わるべく新語句を考案したが、本来の目的を達成できず、外来語を残したままドイツ語での訳語を作る結果となり、語彙の二重性を作り出すという言語変化を引き起こしている。その後たくさんの外来語に対してドイツ語固有の言葉が作れた。ナチスの時代になって国語浄化運動は時代遅れとされたが、現代になって再び今度は英語からの外来語が氾濫している状況に国語育成協会が対策を打っている。

4.仮説

・今回の発表をにあたってドイツ語と日本語における外来語のあり方はかなり異なるのではないかと感じた。日本語では外来語はカタカナを使って表記されるので、その言葉が外来語であることは明らかであり、それは飽く迄も外来語としてあり続ける。一方で、ドイツ語では外来語もすべてアルファベットで表記されるので、時代の経過とともにその言葉が外来語であることは意識されなくなるのではないか？ドイツにフランス語からの借用語が氾濫した 30 年戦争後、ドイツ語固有の新語を作る試みが行われたが、そこから約 400 年たった現代ではフランス語がからの借用語も当時考案された新語も単にドイツ語の語彙として捉えられているのではないだろうか。今日ではドイツ語に英語からの外来語が溢れていて、それを嫌うドイツ語話者も中にはいるだろうし、このドイツ語の歴史から考えると外来語が定着することはさけられないだろう。

・英語の語彙をドイツ語話者が用いた場合、それはくだけた印象や１０代や２０代の若者言

葉のような印象を与えるが、日本語で英語の語彙を多用する人は、洗練されたビジネスパーソンのような印象を与える？このように外来語の使用が聞き手に与える印象が日本語とドイツ語では違うのか？

注釈　※１クセーニエン（Xenien）：1796 年に発表された詩集。ゲーテとシラーによる共著

※２ヒトラー著　Mein Kampf より“Wenn irgend etwas unvölkisch ist, dann ist es eben dieses Herumwerfen mit besonders altgermanischen Ausdrücken, die weder in die heutige Zeit passen noch etwas Bestimmtes vorstellen, sondern leicht dazu führen können, die Bedeutung einer Bewegung im äußeren Sprachschatz derselben zu sehen. Das ist ein wahrer Unfug ,den man aber heute unzählige Male beobachten kann.⑵”

※３　Victor Klemperer, *LTI-Notiz buch eines Philologen*

参考文献

⑴Victor Klemperer,(2007) *LTI-Notizbuch eines Philologen*, 第一章,

⑵Adorf Hitler,(1925) *Mein Kampf*　『我が闘争』

参考ウェブサイト

Sprachreinigung

Joseph Meyer,(1885-1892) *Meyers Konversations-Lexikon* より